



Press Release

報道関係各位

本資料は、ロンドンおよびボストンにて本日配信した発表資料の参考訳です

ステート・ストリート、英国の欧州連合離脱に関してコメントを発表

【2016年6月24日、ロンドン・ボストン】 長く待たれていた国民投票において、英国の有権者らは欧州連合(EU)からの離脱を選びました。この結果に関する、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(SSGA)のグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるリック・ラカイエ、およびステート・ストリート・グローバル・マーケットズ(SSGM)のグローバル・マクロ戦略部門責任者であるマイケル・メカフによるコメントは以下の通りです。

リック・ラカイエ(SSGA グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサー)

「離脱を決めた今回の投票結果は、市場に直ちに影響を与えますし、長期的には、欧州内外で国家主義や保護主義的な動きに影響すると懸念されます。欧州においては、ドイツとフランスで来年行われる選挙で、国家主義の政党が大きく取り上げると予想されます。

貿易、労働移動、海外投資など、市場の動きを左右する要因にも影響が及ぶ可能性があります。リスクをできるだけ早期に軽減するためには、英国の迅速な離脱を進めることが必要ですが、一方で EU は、同様の動きが他国に広がるのを防ごうとしますし、その間で EU がどのようにバランスを取るかが重要になるでしょう。

投票日に至るまでの数週間、国際通貨基金(IMF)、世界銀行、英中央銀行、および世界貿易機関(WTO)などの国際的金融機関や貿易団体は、英国の EU 離脱に対する懸念を表明してきました。世界経済の成長、貿易、海外投資、および金融市場の安定化についてのリスクが懸念材料でした。離脱という投票結果に伴い、こうした懸念が現実になるうとしています。」

マイケル・メカフ(SSGM グローバル・マクロ戦略部門責任者)

「国民投票までの 3 か月の間、この投票に起因する不安定さにもかかわらず、海外の投資家による英国株式と英国債の保有が拡大していました。投資家の行動が変化したのは為替市場のみで、為替リスクに対するヘッジが行われました。投票後に英ポンドが下落したことを見れば、このようなヘッジには先見の明があったと言えますが、今、大事なことは、海外投資家が英国資産の持分を引き下げようとしているか否かを見極めることです。離脱の議決後にも不確かさが継続するなら、投資家が投票前に英国資産を売るのではなく買い入れたことを踏まえ、英国株式および英国債から資金が流出するリスクが高まる恐れがあります。

また、欧州の資産、特にユーロへ派生的な影響が及ぶことにも注意しています。欧州中央銀行(ECB)はバランスシートを積極的に拡大していますが、投資家はユーロ安が継続するとは考えなくなってきていることが注目されます。離脱という投票結果によって欧州内の政治的分裂に対し市場からの関心が改めて高まるとすれば、現時点ではひとつの通貨に織り込まれた政治リスクプレミアムはほとんど存在しないと考えられ、また、ユーロ安を促す金融政策も相まって、対米ドルでのユーロ下落傾向が再び始まると予想されます。」

【本件に関するお問い合わせ先】

ステート・ストリート	広報部	03-4530-7105	Japan_Corp_Comms@jp.statestreet.com
広報窓口(エデルマン・ジャパン)	岡本・安	03-4360-9000	StateStreetJapan@edelman.com

ステート・ストリートについて

ステート・ストリート・コーポレーションは、世界の機関投資家を対象に資産管理や資産運用サービス、インベストメント・リサーチとトレーディング・サービスを提供する世界有数の金融機関です。ステート・ストリートは 28 兆ドルのカストディ・管理資産と 2 兆ドル*の運用資産を有し(2015 年 12 月 31 日現在)、米国・カナダ・欧州・中東・アジアなど全世界の 100 を超える市場で活動しています。

*この運用資産額(AuM)には、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズの関連会社であるステート・ストリート・グローバル・マーケットツ・エルエルシーの資産(2016 年 3 月 31 日現在で約 330 億ドル)が含まれます。

JPMKT-1858 / GMJ-0609